



生きものの“つぶやき”：
「まぶしっ」

エッセイ：

夕方、公園に出向くと穴からアブラゼミの幼虫が出てきそうでした。アブラゼミの幼虫は、木の根本の土の中で3年から4年という長い幼虫期間を過ごします。土の中では長い時間を過ごしていたのに地上に出て羽化したあとには、わずか2週間から3週間という短い時間を過ごして一生を終えてしまいます。そんなアブラゼミの生涯の一部に遭遇しました。アブラゼミの幼虫が木に登っている姿は時々観察することができますが、穴の中にいるときはなかなか見つけづらいので穴を一個ずつライトで照らしながら探す必要があります。

(241字)

生きものの紹介:

アブラゼミ(学名 *Graptopsaltria nigrofuscata*)はカメムシ目ヨコバイ亜目ゼミ科に分類されるゼミの一種。日本(北海道から九州、屋久島)、朝鮮半島、中国北部に分布する。

撮影場所・日時:

埼玉県越谷市 2024年8月10日

応募者の自己紹介:

1. 氏名: 木村 勇飛
2. 高校・学年: 浦和実業学園高等学校・1年
3. 所属: 生物部

審査員からのコメント:

ライト片手に探し回った努力を褒めてあげたい。幼虫にピントが合っているのも素晴らしい。

貴重な一枚です。つぶやきにもうひと捻りほしかった。